

山口県内のヨーロッパ団体の紹介

山口EU協会

山口EU協会は、山口地域とEU諸国(欧州連合)との相互交流に努めることを目的に、平成2年に設立されました。設立当初の事務局は山口商工会議所内に置かれ、平成13年から山口県立大学内に置かれています。主な活動として、EU関係事業への協力や支援、EUとの人的・物的交流を促進する事業の推進、EUに関する情報を提供するための各種講演会などの実施、資料収集、会報誌の発行などを行なっています。現在、全国には11の県にEU協会が置かれています。EUやEU加盟国25カ国に興味のある団体・個人のご入会をお待ちしています。

山口日独協会

山口日独協会は、日独両国民の友好親善をはかり、相互の理解と交流を促進する事を目的に、平成3年(1991年)2月、東西ドイツ統一を機に設立いたしました。現在の会員数は、約160名(内法人会員4名)です。山口県における日独文化の相互交流のために必要な各種の事業を行っています。年間の主要行事としては、ドイツ祭り、夏祭り、クリスマスパーティ、ドイツワイン鑑賞の宵、ドイツ語原書講演会、音楽会・講演会・朗読会の開催、会報の発行(年6回)等の活動を行っています。また、時折、当協会主催のドイツ・オーストリアツアーを実施しています。どなたでも会員になれますので、お気軽に御連絡ください。

山口日英協会

日英同盟百周年を迎えたのを記念し、「日英グリーン同盟 2002:UK-Japan Green Alliance」事業として、2002年7月に英国大使館より山口県にオークの木が送られてきました。山口県内の各地にオークの木の植樹を行い、子ども・若者・市民が日本と英国との交流に参加し、環境や自然保護といった地球的課題に思いをめぐらせ、ふりかえって足元となる自らの地域の人々と暮らしに目を向ける機会になればという願いから、山口日英協会が設立されました。日英両国民の友好親睦を図り、相互の理解と交流を促進するために、様々な国際的なテーマの講演会活動や、イギリス映画祭、クリスマス会、ティーパーティー等で草の根国際交流を展開しています。今年度は「長州5傑の渡英」をテーマにした映画制作への協力や、英語読書会、クリスマス会等の企画を行いなから、会員約60名で活動しています。どうぞご入会ください。

山口ナバラの会

山口市とパンプローナ市の姉妹都市締結15周年を記念する事業として、1997年に日本庭園が完成しました。開園式に参加した訪問団を中心に誕生したのが山口ナバラの会です。以後、その日本庭園のある山口公園(パルケ・デ・ヤマグチ)への桜の植樹や、ナバラ祭りへの参加、アートふる山口をはじめとする地域でのスペイン文化の紹介など、多彩な交流活動を展開しています。特にこの夏には、サンフェルミン祭の時期のナバラ訪問や、ナバラ州立音楽院交響楽団が来山した際の晩餐会などを企画し、盛り上がりました。現在の会員数は195名です。いつでも、どこでも、誰でも参加できる楽しいなごやかな会にどうぞ!

山口日仏国際交流クラブ

ヨーロッパに熱き思いの有る皆様、Bonjoure(こんにちは)。また、山口国際交流芸術祭2005の開催おめでとうございました。私達の小さな山口日仏国際クラブも参加させていただき感謝しております。さて、クラブメンバーのフランス人萩焼き陶芸家、アツジオリ・エリックさん・真樹さん夫妻のギャラリーカフェ(アトリエ)で、フランス好き、ヨーロッパ好き、山口好きの仲間がどなたでも、気楽に語れるLa Squere(広場)を設けてます。山口の事、萩焼きの事、フランスや外国文化の事、中原中也の詩等、語り合しましょう。開催日は毎月第二土曜日、午後4時頃からです。アトリエは下関市(元豊浦町)の湯玉駅(山陰線JR)近くです。駅からは車で3分。

Au plaisir de vous revoir(又、会える日楽しみにしています。)

山口日フィン協会

山口日フィン協会は2005年夏にできたばかりの新しい会ですが、会員数150名を数えます。山口県内にはフィンランドに関連する企業も多く、市民や企業を巻き込んだ講演会やセミナーを開催しています。今年11月にはフィンランドからサンタクローズがやってきての様々なクリスマス関連イベントも開催しました。12月には山口EU協会と、フィンランドのデザインやライフスタイルをご紹介する企画もしています。

各団体にご興味のある方は、勸山口県国際交流協会にお問い合わせください。Tel 083-925-7353

EUフォーラムのお知らせ

フィンランドと和の文化の融合したライフスタイルの提案

2005年12月17日(土)の午後2時半から山口EU協会が主催するEUフォーラムを開催します。場所は山口県立大学 新キャンパス、看護西棟F204教室です。

フィンランドのデザインと和の文化の融合による新しいライフスタイルの提唱について、脇坂克二氏(マリメッコ社で創作活動にあたる。SOUYOU社デザイナー。京都造形大学客員教授)と若林剛之氏(SOUYOU社代表)からお話を伺います。商品、デザイン、産業、生活、文化といったさまざまな視点から、多くの方々にご興味ある話題が提供できるフォーラムです。詳しくはチラシをご覧ください。多数のご来場をお待ちしております。どうぞお気軽にお越し下さい。

主催:山口EU協会
協力:山口日フィン協会
山口県立大学

発行 山口EU協会事務局 〒753-8502 山口市桜島3-2-1
山口県立大学 事務局内
Tel 083-928-0211
hogawa@yypu.jp

おいでませ

EUROPA

No. 5

YAMAGUCHI EU Association

山口EU協会事務局 山口市桜島3-2-1 山口県立大学内

もくじ

- 1 山口EU協会総会
- 1-3 特集:山口ヨーロッパ芸術祭
- 4 山口県内のヨーロッパ団体の紹介
- 4 EUフォーラムのお知らせ

山口EU協会総会

NEWS

2005年7月9日(土)に山口EU協会総会が開かれました。ヨーロッパ市民交流年に当たる今年は、日本国内や海外で約600にわたる様々な行事が展開されています。そこで、山口EU協会でもヨーロッパ市民年公式行事として「山口ヨーロッパ芸術祭」を7月に、EUフォーラムを12月に開催するということでも承されました。また、ニュースレターは年2回発行の予定です。



開会の挨拶をする
山口EU協会 岩田啓靖前会長

総会に続く昼食交流会では、駐日欧州委員会代表部から山口EU協会を訪問された広報部長アン・コフォード氏を囲み、EUの動きについて歓談が行なわれました。

総会、昼食交流会に続く午後の行事は、山口ヨーロッパ芸術祭でした。この行事は、山口県内の国際交流団体が結集して開催するもので、今年度は山口EU協会、山口日独協会、山口日英協会、山口ナバラの会、山口日仏国際交流クラブ、山口日フィン協会という6つの団体が計画し、実行委員会を組みました。(財)山口県文化振興財団、山口メセナ倶楽部、(財)山口県国際交流協会の助成や賛助をいただいで開催できたことは、次へのステップとして大きな力となりました。正式名称は「第3回山口



駐日欧州委員会コフォード広報部長からの祝辞

国際交流芸術祭」ですが、ヨーロッパ芸術祭として、あるいはそれを超越のものとして持続・発展すべく、みなさまのご協力をお願いいたします。

なお、今年度の開催日時は7月9日(土)・10日(日)で、開催場所は山口県立大学講堂、山口市情報芸術センターでした。両日を通して、約1千名近い市民にお越しいただいたこと、御礼申し上げます。

特集:山口ヨーロッパ芸術祭

FEATURE

平和と祈りコンサート開催によせて

山口日独協会理事 上原久生

平和は私たち人類共通の願いで幸福の源ですが、世界の現実には厳しい状況にあります。この混迷を深める現代に「世界の人々の幸福と平和の輪」を山口から広げるため、<平和と祈り>を基本テーマに山口国際交流芸術祭2005を開催しました。

今回は、被爆60周年の節目の年を迎えたピアノを中心にした「平和と祈りコンサート」と文明の衝突と交流をテーマにした映画「永遠の語り」(ポルトガル・フランス・イタリアの合作)を鑑賞していただき、平和の尊さを一緒に考える企画としました。

コンサートでは、広島で被爆したピアノを中心に、平和と祈りにふさわしいプログラムを組みました。ピアノは、1920年代の大正後期に製造され、1945年(昭和20年)、広島市西区の爆心地から2キロほど北にある小学校で被爆しました。戦後まもなく大掛かりな修理がなされ、その後広島の音楽高校や大学の開校時に使用されました。その後、平成16年所有者からピアノ調律師の矢川光則氏へ「平和の為に使って欲しい」と譲渡されました。被爆60周年の節目の本年、各地のコンサートで戦争の愚かさ、平和の尊さを私たちに語りかけています。

出演者は、山口県内で研鑽を積んでいるピアニスト中村桂子氏、矢嶋由紀子氏、刀根由貴子氏、声楽家荒川順美氏、レジナ・チェリ合唱団、山口大学管弦楽団にて構成しました。また、オーケストラの指揮と全般的指導には、欧米で修行、現在は日本各地で活躍されている清水宏之氏を迎えました。

第1部ではピアノソロ、コーラス、ソプラノソロで、ショパン:ノクターン、モーツァルト:ミサプレヴィス、シューベルト:アヴェ・マリア等が、第2部ではピアノソロでモーツァルト:ピアノ協奏曲第23番K488が、演奏されました。最後にバッハ:グノー作曲:アヴェ・マリアを会場の皆さんと全員で歌い、演奏し、平和を祈りました。

コンサート当日は、大雨警報が出ていましたが、山口県立大学講堂(650席)がほぼ一杯となるお客様が来られ、大変嬉しく思いました。



山口国際交流芸術祭開催趣旨について語る上原久生氏



特集：ヨーロッパ芸術祭

私達のイベントは、過去2回は「山口国際交流映画祭」として開催してきました。今回から映画に加え音楽、ダンス等にも対象を広げ、芸術祭とし、今後も継続していきたいと夢を描いています。

芸術は、直接戦争を止める事はできないかもしれませんが、飢えている人を救う事もできません。しかし、人は、芸術を通じて感動し、感動した人は素直になり、優しくなります。他者への思いやりが生じ、大きな愛が育まれてくると思います。その様なお役に少しでも役立ちたいと考えています。

また、地域の特性を生かしながらオリジナルなものを作り、地域密着型の企画を実施していき、地域の文化力発揮の一助になればと思っています。

今後とも山口国際交流芸術祭に対し、皆様のご理解、ご支援、ご協力をよろしくお祈りします。

駐日欧州委員会コフォード広報次長の祝辞

本日開催されます山口国際交流芸術祭（平和と祈りコンサート・映画部門）にお招きいただいたことを光栄に思います。

この芸術祭は昨年・一昨年と大変な成功を修めており、山口EU協会が、山口県立大学や山口県内のヨーロッパ関係団体と連携して開催している活発な事業の一つです。ここで、大学関係者の方々、また、山口日独協会、山口日英協会、山口ナバラの会、山口日フィン協会、日仏国際交流クラブの方々の多大なご尽力に対し敬意の意を表したいと思います。

さて、ヨーロッパの多様な言語、文学、演劇、美術、建築、工芸、映画、放送などは、すべてヨーロッパ文化を構成する要素です。それぞれは一つの国や地域に属していますが、同時に、ヨーロッパに共通する文化遺産でもあるのです。EU（ヨーロッパ連合）の目的は二つあります。一つはこの文化の多様性を維持すること、そしてもう一つはより多くの人々にこの多様なヨーロッパ文化に触れていただく機会をつくることです。この目的は1992年のマーストリヒト条約で謳われ、この条約によってはじめてヨーロッパ文化の多様性が公式に認められたこととなります。（略）

この芸術祭も「日・EU市民交流年」の公式行事の一つです。2002年に開催された第11回日本・EUサミットで、2005年を「市民の草の根交流の年」と決めました。市民交流年の目的は、日本とヨーロッパの人々の間で、お互いの理解を深めるというものです。今年一年間を通して、顔のわかるおつきあいをし、日本及びヨーロッパ各地で展開されるさまざまな事業を通して、人間性と社会についての相互



フィナーレ

理解がもっともっと進むようにと願っています。（略）

今から始まる「平和と祈りコンサート」では、ヨーロッパが誇る作曲家の名曲をお楽しみいただけます。演奏に使われるピアノは爆心地から2キロの小学校にあったものです。1ヵ月後には、ヨーロッパでは第二次世界大戦（ヨーロッパ戦線）の終戦記念日を迎えます。終戦後に平和と安定の確立を目指してヨーロッパが行ってきた努力が、現在のEU（ヨーロッパ連合）の基礎となっているのです。

これから始まる演奏を楽しめることで、ヨーロッパの多様な文化へのご関心が燃え上がることを祈って、挨拶といたします。有難うございます。

欧州が変える山口

山口日英協会副会長 國村禎夫

第3回山口国際交流芸術祭にたくさんの市民のご参加誠に有難うございました。山口県立大学の皆様、学生さんをはじめたくさんのボランティアの方々にお手伝い頂き、感謝の念に絶えません。



芸術祭2日目の挨拶に立つ國村禎夫氏

今回の芸術祭のテーマは「平和と祈り」でございました。第1日目の7月9日には、60年前に被爆したピアノが懸命に奏でる平和の調べが、多くの方々の胸をうち、感動の渦に巻き込みました。翌日7月10日はこいね会舞踊学院による、イギリスの流れをくむ社交ダンスの上演、ヨーロッパのエレガントなダンスパフォーマンスと南アメリカの軽やかなリズムに酔いしれました。

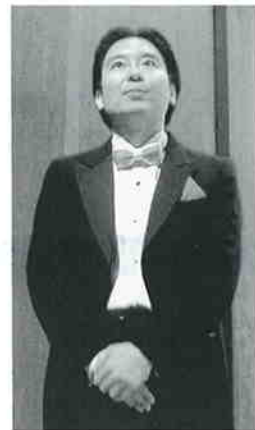
ところで、今回の芸術祭の実行委員が悩んだのは7月10日に上映する予定であった映画（実際は7月9日、7月10日両日上映）の選定でした。噂々々々の議論の末選定されたのが、85歳になる、ポルトガルのアノエルド・オリヴェイラ監督の「永久の語らい」という映画でした。

この映画の前半は、西欧中心の文明を再確認し、単純にヨーロッパ文明の偉大さを誇示しているように見えます。しかし、実際はむしろその逆で、文明は「風前の灯のような危うさにある」ことがラストの衝撃的な一瞬でまざまましく表現され、この突然の恐怖が、必ずしも突発的なものでなく、なにか長い歴史のツケがまわってきたと思わせるところがこの作品の理知的な奥の深さであると感じました。一方、映画の船旅の



子ども達のダンス

FEATURE



音楽の役割について語る清水宏之氏（ルーマニア第4回アイン・ニクレスク国際指揮者コンクール優勝者）

これから始まる演奏を楽しめることで、ヨーロッパの多様な文化へのご関心が燃え上がることを祈って、挨拶といたします。有難うございます。

特集：ヨーロッパ芸術祭

中での西歐的優雅さと知性の模範のような三人の熟年女優の食卓を囲んでのそれぞれの母国語での会話（通訳なし）は、今の欧州の一体感に対する満足感、自信の大きさの表れであると言えます。我々、実行委員が平和というテーマのこの芸術祭において気づかされたのは、EU（大欧州）のまさにこの点です。



華麗な社交ダンス

山口県内の各国の国際交流団体のリーダー的な存在である、EU協会、そして、EU連合の動きは世界の中で大きな平和に向けての潮流をつくりつつあります。ヨーロッパ25ヶ国、人口25億人の人々は今回の映画のように母国語を大切にしながらも、言葉の壁、様々なしがらみを越え、多様な価値観を共有しながら、ヨーロッパの平和に向けて安全保障の枠組みをつくり、通貨を統合、自由貿易までを実践しています。

大欧州の人々は二度の大きな世界大戦を経て、真の平和を得るためには、力を力で抑えつけるのではなく、国民が袂を脱いで腹を割って話し合う姿勢が大切ということを知って知り尽くしています。我々実行委員はこのEUの平和へのプロセスの積み重ねを踏まえ、隣国との摩擦が目立つ最近の日本は、あえて外交をあてにせず、地域のなかで市民と市民の草の根の交流を進めることがアジアの平和を生む大きな原動力になると確信しています。

この催しものを行う度に、EUのことを詳しく知ることによって未来の日本とは、世界とは、そして山口のあるべき姿を考えることが出来るのは貴重な体験であり、山口国際交流芸術祭が市民の支持を得てこれからも続いていくことを心から願っております。

（ここに掲載したすべての写真は、山口日英協会の山田禎二氏にご提供いただきました。）



山口国際交流芸術祭2005（ヨーロッパ芸術祭）実行委員会メンバー：上原久生、國村禎夫、西村崇夫、山田禎二、岸正人、岩野雅子、ビクトリア・ベントリー、大久保雅子

実行委員会代表のビクトリア・ベントリー国際交流員

みなさまからの感想

『平和と祈りコンサート』には次のようなお声をいただきました。

- ・被爆したピアノを中心に、ピアノソロ、合唱など様々なジャンルのヨーロッパ音楽が聴けたので、大変満足しました。
- ・どれも印象深かったのですが、特にソプラノに鳥肌がたちました。また次回、ぜひ来たいです。
- ・選曲がとても良かったです。好きな曲ばかりで、とても楽しめました。平和について考える機会になりました。
- ・学生達の精進を期待し、来年を楽しみにしています。地元の音楽家達の活躍の場として、素晴らしい企画だと思います。
- ・EU代表部コフォード氏、山口県立大学長、清水宏之指揮者の挨拶にもありましたように、私達は平和を願います。今後も国際交流で平和を目指しましょう。
- ・平和や戦争など考えるゆっくりした時間がもてたこと久しぶりです。感謝します。



コンサート風景

映画『永遠の語らい』には次のようなお声をいただきました。

- ・映画には、作品の選択に感謝。このイベントの趣旨を感じさせ、本芸術祭ならではのテーマを提示した。他の期間や団体ではできない芸術祭として、継続して頂けると幸いです。
- ・『ヨーロッパ市民交流年』を記念しての『永遠の語らい』の選択がVery Good! 3カ国の大女優と船長の4カ国語での会話の場面が印象的、圧巻であった。
- ・考えさせられる映画だった。多くを語らないラストシーンが印象的だった。世界にはいろいろな国がある。その文化の一片でも触れられるこの機会には基調だと思いました。
- ・テロや戦争で為す術もなく犠牲になるのは一般人や子どもという現実を、これ以上なく描ききつ作品だと思った。メッセージも映画として素晴らしかった。
- ・一人一人が平和の祈りを大切にしたい。